教職開発研究　第７号　2024　17－22

道徳的価値への理解を深める道徳教育プログラムの開発

― 思いやりプログラムの実践から ―

鈴木由美子・小原　智穂[1]

Development of a Moral Education Program to Deepen Understanding of Moral Values

― From the Practice of a Compassion Program ―

Yumiko SUZUKI, Chiho OBARA

Abstract: As a moral education program to deepen moral values, this study developed a compassion program for third-grade elementary school students and verified its effectiveness. The compassion program consisted of four moral lessons. The opinions written by the students in each class were analyzed to reveal the deepening of their moral values. The results highlighted the following two points: First, the children's moral values expand and deepen as they go through the lessons, which allows them to gain a multi-layered understanding of moral values. Second, the value of compassion encourages them to become aware of other moral values such as responsibility, gratitude, honesty, courage, and patience.

Key words: moral education, moral education program, compassion program
キーワード：道徳教育　　道徳教育プログラム　思いやりプログラム

１．研究の背景と目的

グローバル時代において，自分とは異なる他者の考えを受け入れることが求められてきている。それは，自分の考えを持ち，相手と自分の考えが違うことがわかることで，自分と他者の間の相互理解を促進することでもある。相互理解は，他者を知ることを通して自分自身を変えることにもつながる。他者を理解するということは，自分の中にあった当たり前を変えたり，世界観を変えたりすることであり，自分の考えを広げ深めることにつながると考えられる（鈴木・小原；2018）。

本論では，自己変容を自分の認識を広げ深めることと定義する。鈴木・松田（2016）が指摘するように，子供は自分を中心におきながら，多くの経験を重ね異なる価値観を受容して，自分という器を大きくしていく。本論では，子供たちがどのように自分の考えを広げ深めていくか，そのプロセスを追うことにする。そのために，複数の教材によって構成される思いやりプログラムを開発し，小学校で実践を行った。ここでは，小学校３年生を対象にして行った，思いやりプログラムの実践について取り上げる。

２．思いやりプログラムの構成と授業実践の概要

（1）思いやりプログラムの構成

本実践では，思いやりの心をテーマとし，相手の思いを自分のことのように思い「思いやりの心」をもって進んで親切にする力を育成することを目的として，４時間の道徳科授業で構成されるプログラムを行った。思いやりプログラムは，次の４個の道徳授業で構成された。「助かった命」では，自分と他者の命の大切さに気付くことを目的とした。「ジュースのあきかん」では，自分の行いが周りに影響に与えることを知り，ルールを守ることの大切さに気付くことを目的とした。「ダブルブッキング」では，自分の間違いを認め，自分で判断し行動することの大切さに気付くことを目的とした。「いちばんうれしいこと」では，自分の喜びが相手の喜びになることに気付くことを目的とし

[1] 三次市立吉舎小学校教諭

た。これら４つの授業を通して，思いやりについての考えが，どのように広がり深まるか検討することにした。

（2）授業実践の概要

実施年月日と教材名：１回目：2023年１月16日（月）「助け合う命」，２回目：１月23日（月）「ジュースのあきかん」，３回目：１月30日（月）「ダブルブッキング」，４回目：２月10日（金）「いちばんうれしいこと」（以上，『生きる力３』日本文教出版）

対象児童：Ａ県Ｂ小学校３年生　17名

授 業 者：学級担任

手 続 き：学級担任が道徳科授業を実施し，授業の中でプログラム内の授業を関連付ける発問を行った。授業内で道徳ノートに書かれた児童の意見を分析対象とした。また，プログラムの前後で「思いやりとは何ですか」と尋ねるアンケート調査を行い，思いやりに対する考えの変容を見た。４つの道徳科授業ならびに実施前後のアンケートにすべて答えた12名の児童を対象として分析を行った。

（3）それぞれの授業の学習指導案

1）「助かった命」の学習指導案（略案）

１回目の道徳科授業の教材は，「助かった命」で，授業の目標は「阪神淡路大震災で避難している途中，近所の人に倒壊した家屋の下敷きになった家族の助けを求められ手伝うことを決めた父と兄の心情とそれを見送る主人公の心情を考えることを通して，命の大切さに気付き，自他の命を大切に生きていこうとする道徳的心情を育む」であった。学習指導案（略案）は資料１の通りである。

2）「ジュースのあきかん」の学習指導案（略案）

２回目の道徳科授業の教材は「ジュースのあきかん」で，授業の目標は，「電車に置き忘れたジュースの空き缶が転がる様子を見て見ぬふりをしていたあつしが，電車を降りる時，お姉さんが他者が捨てた空き缶を拾いごみ箱に捨てた音を聞き，心に響いた思いを考えることを通して，ルールを守ることの大切さに気付き，誰かのためにルールを守っていこうとする道徳的心情を養う」であった。学習指導案（略案）は資料２の通りである。

3）「ダブルブッキング」学習指導案（略案）

３回目の道徳科教材は「ダブルブッキング」で，授業の目標は，「喧嘩をしている二人の友達とそれぞれに遊ぶ約束をしたことに気付いた主人公が，二人に分からないように解決しようとしたことがばれてしまい，どうしたらいいか悩む心情を考えることを通して，自分が間違ったことをした時に正しい判断をして，実

資料１：「助かった命」学習指導案（略案）

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	支援（○）と評価（☆）
導入	１．阪神淡路大震災について知る。	○阪神淡路大震災についてどんなことを知っていますか？	○写真を活用して児童に阪神淡路大震災の被害状況を知らせ、被害を身近なこととして考えさせる。
	２．「助かった命」の話を聞いて考える。	○「助かった命」の話を聞いて考えさせる。	
	①瓦礫の中を避難するつとむの気持ちを考える。	○つとむは，瓦礫の中をどんな気持ちで避難していたでしょう。	○震災の緊迫した状況から，自分のことだけしか考えられないことを想像させる。
	②助けようとした父と兄，止めなかったつとむと母の気持ちを考える。	◎どうしてお父さんとお兄さんは近所の子供を助けようとしたのでしょう。つとむとお母さんは，どうして止めなかったのでしょう。	○自分の命を守ることだけで精一杯の中で，自分にできることをして助けられる命を助けていこうとする思いを考えさせる。 ☆命の大切さに気付き，自他の命を大切に生きていこうとしている。
	３．内省化		
	①震災時に命を助け合う人の思いを考える。	○震災時に配給される水や食料を配る列をみてどう思いますか。	○苦しい状況の中でも順序を守って，行動しようとしている人の思いに気付かせる。
終末	４．ルールを守ることはどんなことにつながるのかを考える。	○ルールを守ることは，どんなことにつながっているのでしょう。	○思いやりプログラムを意識し，ルールを守る意識の中に他者への思いがあることを意識させる。

行することの大切さに気付き，間違った時にごましたりせず，自分で考え正しく判断し行動していこうとする道徳的判断力を養う」であった。学習指導案（略案）は資料３の通りである。

4）「いちばんうれしいこと」学習指導案（略案）

４回目の道徳科授業の教材は「いちばんうれしいこと」で，授業の目標は，「『人がいちばんうれしいのは，人を喜ばせることだ。』という思いから，相手を思いやる人を描き続けてきたやなせたかしさんの思いを考えることを通して，相手の気持ちを考え，思いやるこ

資料２：「ジュースのあきかん」学習指導案（略案）

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	支援（○）と評価（☆）
導入	1．ルールについて考える。	○ルールは何のためにあるのでしょう。 ・自分の身を守る・周りの人に迷惑になる。	○これまでルールにどのようにどのように考えていたのかを意識させる。
展開	2．「ジュースのあきかん」の話を聞いて考える。 ①男の人が，ジュースの空き缶を置いたままにした理由を考える。 ②転がってきたジュースの空き缶をよけたのはどうしてだろう。 ③空き缶の音があつしの心に響いた理由を考える。 3．内省化 ①「助かった命」との関連からルールを考える。	○「ジュースのあきかん」の話を聞いて考えさせる。 ○男の人は，どうしてジュースの空き缶を置いたまま降りたのでしょう。 ○あつしは，どうして転がってきた空き缶をよけたのでしょう。 ◎空き缶の音があつしの心に響いたのはどうしてでしょう。 ○「助かった命」でみんなが並んでいたことを振り返ってルールにはどんなことが大切だと思いますか。	○空き缶を車内に置く男の人の気持ちを考えさせ，人間理解をさせる。 ○傍観者から関係者に巻き込まれていく主人公の心情の変化に気付かせる。 ○心に響いた理由を考えさせ，ルールについて他者との関わりの中でどう考えるのかを意識させる。 ○ルールかマナーかという曖昧さに左右されずに，おもいやりプログラムの関連で，考えさせる。 ☆誰かのためにルールを守っていこうとしているか。
終末	4．ルールについて始めの考えと比較する。	○ルールについて，どのように考えが変わりましたか？	○道徳ノートに振り返りを書かせる。

資料３：「ダブルブッキング」学習指導案（略案）

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	支援（○）と評価（☆）
導入	1．「ジュースのあきかん」について想起する。	○「ジュースのあきかん」でルールについて考えたことを思い起こしましょう。	○前時を想起し，「自分」「相手」「責任」「優しさ」のキーワードを意識させる。
展開	2．「ダブルブッキング」の話を聞いて考える。 ①太一はどうして困っているのだろう。 ②太一はどうすればよかったのかを考える。 3．内省化 ①正しい判断について考える。	○「ダブルブッキング」の話を聞いて考えさせる。 ○太一はどうして困っているのでしょう。 ○太一はどうすればよかったのでしょう。 ○正しい判断をしていくのは何のためでしょう。	○教材提示をプレゼンテーションで行い，教材の理解を促し，困っている理由を教材提示で理解させる。 ○どうすればよかったかという行動をもとに，その理由を考えさせる。 ○板書を構造的に行い，誰のためかを視覚的にもわかるようにする。 ☆自分で考え正しく判断し行動していこうとしている。
終末	4．自分・友だち・みんな視点を考える。	○「助かった命」「ジュースのあきかん」「ダブルブッキング」の話で同じように出てきたのはどんな考えでしょう。	道徳ノートに振り返りを書かせる。

資料４：「いちばんうれしいこと」学習指導案（略案）

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	支援（○）と評価（☆）
導入	１　課題意識をもつ。	○自分にとって一番うれしいことはなんでしょう。	一番嬉しいことは，自分が喜ぶことであることに気付かせ，道徳的価値への動機付けをさせる。
展開	２教材「いちばんうれしいこと」を読んで話し合う。	○「いちばんうれしいこと」を読んで，話し合いましょう。	
	（１）戦中戦後とひもじい思いをしたやなせさんの気持ちを考える。	○戦争中も戦争が終わってからもお腹をすかせていたやなせさんが，大切なのは一切れのパンを分け与えることだと気付いたのはどうしてでしょう。	○「お腹が空く」という場面をイメージさせることで，辛さや悲しさを共感させる。 ○イメージを持たせた上で，自分と同じ思いを他者がしていることに気付いたやなせたかし氏の思いを考えさせる。
	（２）アンパンマンのつぎはぎだらけのマントに込められた思いを考える。	○アンパンマンのつぎはぎだらけでボロボロのマントには，どんな思いが込められているのでしょう。	○人の苦しみと自分の苦しみを重ねているやなせさんの思いに気付かせる。 ○自分にできることをしていこうとする思いが，アンパンマンに込められていることに気付かせる。 ○自己犠牲の考え方にならないように，自分にできることをしていることを押さえる。
	（３）「人は人を喜ばせることが，一番うれしい」理由を考える。	◎どうして「人は人を喜ばせることが，一番うれしい」ことなのでしょう。	○考えを自分の立場と相手の立場に分けて板書し，気持ちの重なりや思いやりが広がっていくことを視覚化させる。 ☆相手の気持ちを考えて，思いやりの気持ちをもって接していこうとする思いに気付いている。
	３.自分の生活を振り返る。(内省化)	○人に喜んでもらって嬉しかったことがありますか。	○導入とつなげて思いやりの価値について考えさせ，内省化を図らせる。 ○振り返りの発表を板書に生かし，振り返りの交流を通して，価値を自分のこと
終末	４振り返りをする。	○今日学んだことを振り返りましょう。	○学びを振り返らせ，道徳ノートに記述させる。 ☆思いやりの心をもって自分にできることをしていこうとする道徳的心情をもてている。

との大切さに気付き，困っている人や悲しい思いをしている人の思いを考え，自分ができることをしていこうとする思いやりの心をもって接していこうとする道徳的心情を培う」であった。学習指導案（略案）は資料４の通りである。

３．結果と考察

１回目の「助かった命」での児童の意見は，「自分の命は大切」に関する記述が３個，「自分の命も他の人の命も大切」に関する記述が３個，「思いやりの大切さ」に関する記述が４個，「ルールの大切さ」に関する記述が３個であった（複数回答を含む）。この授業の目標が「命を大切にしようとする心情を養う」ことだったことから考えると，思いやりやルールの大切さに関する記述が見られるのは，児童が教材内容を超えて自分で感じ考えていることを示していると考えられる。

２回目の「ジュースのあきかん」での児童の意見は，「落とした人が自分で拾った方がよい」のようにルールを守ることに関する記述が７個，「拾って捨てたお姉さんのやさしさや勇気に関する記述が５個，「周りの人への迷惑」に関する記述が６個であった（複数回答を含む）。この授業が，「誰かのためにルールを守ろうとする心情を養う」ことだったことから考えると，児童は教材内容を越えて，思いやり，勇気，優しさ，安心について考えていたと思われる。

３回目の「ダブルブッキング」での児童の意見は，「自分のしたことに責任を持つことも大切」というように自分に関する記述が５個，「自分が原因で仲が悪くなる。もし，こんなことが起きたら，自分で誤りに行く」のように，自分と友達に関する記述が４個，「自分のしたことは，自分の力で解決しないと，こんなふうにみんなが困る」というように自分とみんなに関する記述が３個であった（複数回答を含む）。この授業の目標が，「間違ったときにごまかしたりせず，何が正しいか自分で考え判断する」ことの大切さに気付くことだったことから考えると，児童は教材内容を越えて，責任，周りの人を大切に思うこと，正直について考えていたと思われる。

４回目の「いちばんうれしいこと」での児童の意見は，「自他を大切にする」に関する記述が３個，「人を笑顔にすること」に関する記述が５個，「感謝の大切さ」に関する記述が２個，「人を喜ばせることの大切さ」に関する記述が５個，「思いやりの大切さ」に関する記述が２個，「我慢することの大切さ」に関する記述が１個だった（複数回答を含む）。この授業の目標が「思いやりの大切さに気付く」ことだったことから考えると，思いやりを，相手を喜ばせること，感謝すること，忍耐することなど，様々な角度から捉えられるようになっていると考えられる。

次に，事前事後アンケートの結果についてである。記号は便宜的につけたものである。児童の意見は個人が特定されないよう，意味が変わらない程度に修正している。

表１　思いやりプログラム事前事後アンケートの結果

児童	事前
a	分からない
b	人の気持ちを思ってあげること
c	人の気持ちを分かること
d	親切
e	友達を助ける
f	優しくする
g	相手の気持ちを思ってあげる
h	親切にしてくれる
i	注意
j	人を親切にする
k	相手を思いやること
l	人に優しくする

児童	事後
a	みんなと協力すること
b	友だちや地域の人（身近な人）に喜んでもらうこと
c	思いやりの心は誰にでもあるから人を笑顔にできる。
d	思いやりの心が重なっても人を笑顔にできる。
e	物が落ちていれば拾ってあげるようなことが思いやり
f	人助け
g	人の手伝い
h	話しかける
i	もし大変なことがあったら話しかける
j	人を守る
k	相手のことを思う
l	人に優しくする

事前には，「親切」「優しくする」「友達を助ける」など一言で表現する意見が多かった。事後には，「友達や地域の人（身近な人）に喜んでもらうこと」「ものが落ちていたら拾ってあげるようなことが思いやり」のように具体的な行動として理解している意見が増えていることがわかる。また，「思いやりの心は誰にでもあるから人を笑顔にできる」「思いやりの心が重なって人を笑顔にできる」というように，自分たちにも何かができるというような前向きな考え方が生じていること，相手に話しかける，相手を助けるといった行動化につながるような意見が増えていることが見て取れた。

４．成果と課題

以上から，思いやりプログラムの成果として，以下の点があげられる。

第１に，１回目の授業から回数を重ねるにつれて，教材内容を越えた道徳的価値への気づきが促されたことである。１回目の時は，自他の命を大切にするという目標に沿った意見がほとんどだったが，２回目は，ルールを守ることの大切さに気付くことを目標にした

授業だったが，ルールを守ることが周りの人への思いやりや優しさや安心と関連していること，人のために行動するには勇気が必要だということなど，多面的に物事を考えることにつながっていた。１時間目に自他の命の大切さについて学んだことが，ルールを守ることが自分だけのことではなく，電車に乗っている周りの人や，これから乗るかもしれない人のことへと思いを馳せることにつながったのではないかと推察される。３回目には，さらに広がって，自分の責任だという考え方，正直であることの大切さ，またそれは相手のためでもあるというような考え方が生じていた。思いやりプログラムの４時間目は，思いやりの大切さを考える授業だったが，感謝すること，相手を喜ばせること，相手を喜ばせるために自分が我慢する必要があることなど，物事を多面的，多角的に見ることができるようになっている。３時間の授業を重ねてきたことが，４時間目の重層的な考え方の育成につながっていると考えられる。

第２に，思いやりへの理解の深まりについてである。今回実施した授業のうち，思いやりを授業の目標としたのは４回目の授業だけだった。しかし，取り上げた教材の中には，自分と相手，周りの人との関係や，人々が安心して過ごせるために必要という視点でのルールの捉え方，自分の判断が相手に影響を与えることなど，児童が他者の存在を意識する内容が含まれていた。このことが，思いやりは自分と相手との関係だけでなく，広く社会との関係や，自分が判断する際の基準として責任，感謝，正直，勇気，忍耐などの道徳的諸価値への気付きを促したと思われ，児童の考えの広がりや深まりにつながったと考えられる。

今後は，異なる学年での思いやりプログラムの開発を行って，系統的なプログラムを作成して，児童の考えの広がりと深まりを支援していくことを課題としたい。

引用文献

鈴木由美子・小原智穂（2018）「生命尊重の価値を深める道徳授業の開発」『教職開発研究』第１号 pp.11-16

鈴木由美子・松田芳明（2016）「生命尊重の価値に迫る道徳授業の創造」『学校教育実践学研究』第23巻 pp.155-161

参考文献

鈴木由美子他（2007）子どもの道徳的価値判断における対人関係認識の発達的変容－道徳授業におけるワークシートの分析を通して－『学習開発学研究』１号　pp.89-97

鈴木由美子（2008）子どもの道徳的判断の特徴からみた道徳教育の課題－「対人関係」葛藤の理由づけの分析から－『道徳教育方法研究』13号　pp.11-19

鈴木由美子他（2009a）子どもの対人関係認識の発達に即した道徳教育プログラムの開発－小学校中学年における成果と課題－『学校教育実践学研究』15号 pp.81-93

鈴木由美子他（2009b）道徳的価値への気づきを促す道徳授業を開発するための基礎的研究－葛藤を調整する視点への着目から－『道徳と教育』327号　pp. 92-102

鈴木由美子他（2010）葛藤解決による道徳的判断力の育成に効果的な方法－セルマンの社会的視点取得理論に着目して－『道徳と教育』328号 pp.116-126

鈴木由美子他（2011）対人理解を促進する道徳教育の方法－セルマンの社会的視点取得理論に着目して－『学習開発学研究』４号　pp.49-55

鈴木由美子・宮里智恵編著（2012，2019）やさしい道徳授業のつくり方　溪水社

鈴木由美子・宮里智恵・森川敦子編著（2014）子どもが変わる道徳授業　溪水社

鈴木由美子（2022a）時代の変革期に教育に求められる不易への視点（特集：未来を拓く－ Society5.0時代の道徳教育に向けて－）『道徳と教育』339号 pp.39-47

鈴木由美子（2022b）道徳教育の50年の歩みと展望 公益財団法人日本教材文化研究財団『研究紀要』50号　pp.78-82

※本研究は JSPS21K02467によるものである。